

自社資産である帳簿在庫を日々の運用で増減、設定する処理は以下の2つがあります。

- ① 入出庫入力(入庫・出庫・倉庫間移動)・・・倉庫別商品別に帳簿在庫の調整や、倉庫間移動する場合に使用します。
- ② 棚卸入力・・・実地棚卸(倉庫別の営業在庫)結果をシステムに反映し帳簿在庫を調整する場合に使用します。

以下、それぞれの処理について説明します。

■ 入出庫処理

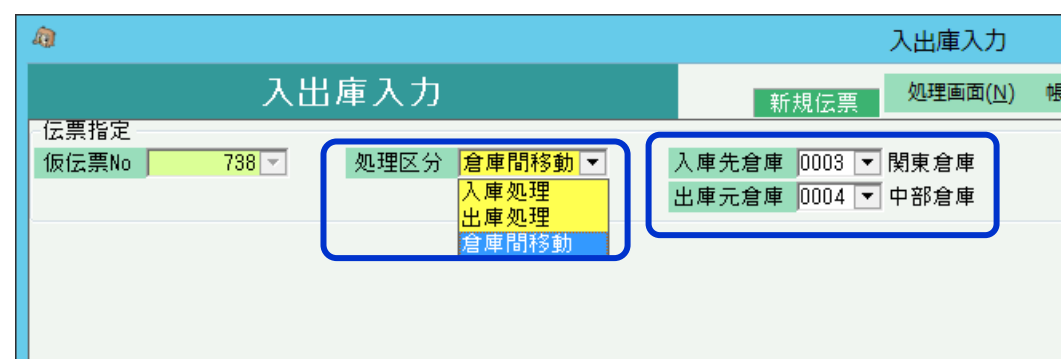
倉庫別商品別に帳簿在庫の調整や、倉庫間移動する場合に使用します。  
処理をする商品は在庫管理対象で登録されている商品であることが前提です。

伝票の入力方法は「伝票入力、検索画面の基本操作」マニュアルを参照してください。

◇ 入力方法

新規登録の場合、最初に処理区分を選択します。  
処理区分には「入庫処理」「出庫処理」「倉庫間移動」があります。

次に倉庫を選択しますが、倉庫間移動の場合は「入庫先倉庫」と「出庫元倉庫」の両方を指定します。



在庫増減する入出庫日を指定し、明細には処理する商品と数量を指定します。

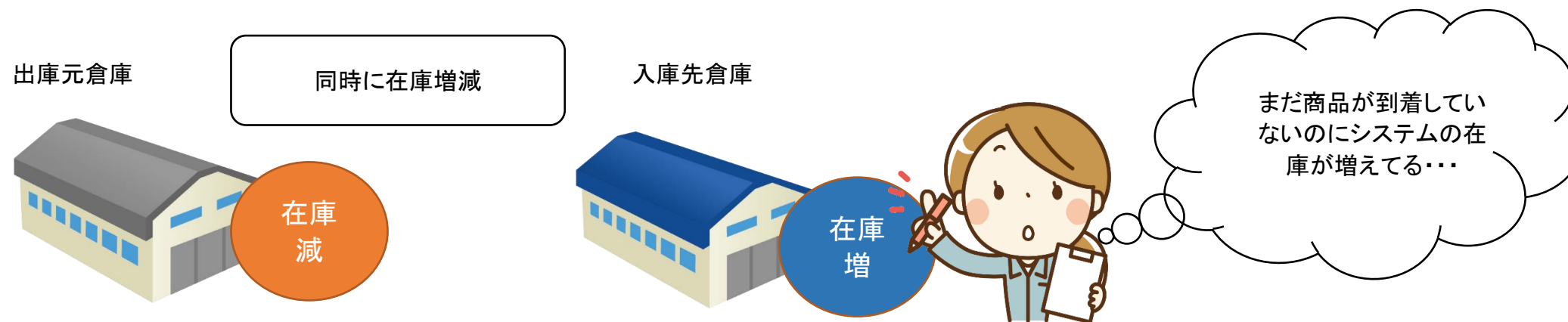
基本情報							
入出庫日	2017/02/24						
担当者	9999	管理者	事業所	本社			
摘要							
明細情報							
行No	削除	伝区	商品コード	品名2	種別	単位	単価
			品名	入庫数量			
1	<input type="checkbox"/>	入庫	01-0001	テスト部品1			0.0
				30.0			
2	<input type="checkbox"/>	入庫	01-0002	テスト部品2			0.0
				40.0			
3	<input type="checkbox"/>	入庫	01-0003	テスト部品3			0.0
				45.0			
				合計数量			

登録すると帳簿在庫が増減します。

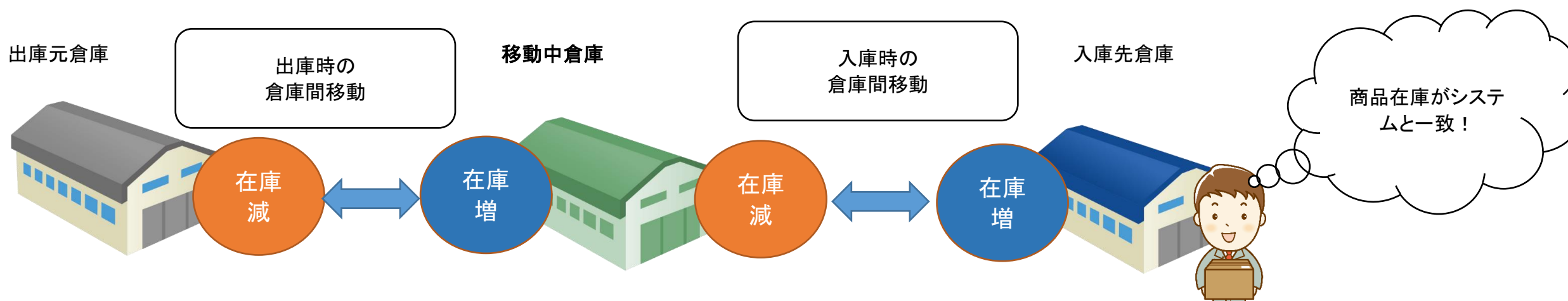
- 入庫処理・・・指定倉庫への帳簿在庫が増加します。
- 出庫処理・・・指定倉庫への帳簿在庫が減少します。
- 倉庫間移動処理・・・出庫元倉庫の帳簿在庫が減少し、入庫先倉庫への在庫が増加します。

◇ 倉庫間移動処理の注意点

前頁で説明しました通り、倉庫間移動では出庫元と入庫先倉庫の在庫が同時に増減します。  
 単なる在庫調整で処理する場合は倉庫間移動でも運用できますが、実際の倉庫移動の処理に合わない場合がありますので処理方法は十分に検討してください。



本来の在庫の動きに合わせてシステムで処理するのであれば、出庫倉庫側で出庫処理し、入庫倉庫側で入庫処理する方がよい場合があります。  
 ただしこの場合は、出庫処理した時点で帳簿在庫が消えてしまいますので、「移動中倉庫」を倉庫マスタに作成し、移動中倉庫で倉庫移動します。  
 入庫先では商品到着時に移動中倉庫から自倉庫へ倉庫移動します。  
 これにより帳簿在庫は常に一致します。



■ 棚卸処理

実地棚卸(倉庫別の営業在庫)結果をシステムに反映し帳簿在庫を調整する処理を意味します。  
 処理をする商品は在庫管理対象で登録されている商品であることが前提で、倉庫別商品別の処理となります。

◇ 棚卸リスト

「在庫管理」タブの「棚卸リスト」メニューで発行できます。帳票種別に以下の2つがあります。

- ① 棚卸前リスト …… これから実地棚卸するときに発行し使用します。実地棚卸数量列に、棚卸しながら手書きで数量を記載します。

棚 卸 前 リ ス ト

棚卸前リスト 棚卸日: 2017/01/12 倉庫: 本社倉庫 商品: ~

1/3

※実地棚卸数には未整備数を含む倉庫の在庫数(営業在庫数)を入れてください。

商品コード	商品名	管理番号	帳簿 在庫数	貸出中数	営業 在庫数	実地 棚卸数	差異数 (営業-実地)	備 考
000-0001	2CT 4×38-20m	001	1	0	1			
000-0001	2CT 4×38-20m	002	1	1	0			
000-0001	2CT 4×38-20m	003	1	0	1			
000-0001	2CT 4×38-20m	004	1	0	1			
000-0002	2CT 4×38-40m	001	1	0	1			
000-0002	2CT 4×38-40m	002	1	0	1			
000-0002	2CT 4×38-40m	003	1	0	1			
02-001-001	敷鉄板		60	0	60			
02-001-002	敷鉄板 3×6 19mm		59	62	-3			
02-001-004	敷鉄板 4×8 22mm		0	30	-30			
02-001-101	編組板 3×6 22mm		90	1	89			

実地棚卸数 :  
 「未整備数を含む在庫数(営業在庫数)」を記入します。  
 入在庫入力で棚卸インポートする場合、実地棚卸数=棚卸数量を  
 指定します

差異数 :  
 「営業在庫数-実地棚卸数」を記入します。  
 入在庫入力で棚卸伝票を手入力で作成する場合、差異数を入力し  
 ます。

- ② 棚卸リスト …… 棚卸入力した結果をリストで確認できます。

◇ 棚卸入力

実地棚卸数を倉庫別の商品別に入力できます。

棚卸入力

倉庫・商品指定

倉庫 0000 共通倉庫 商品分類 ~

商品 ~

棚卸日 2017/03/31 帳簿在庫数量 〇除外

前回棚卸日 2017/01/31

基本情報

仮伝票No 739 担当者 9999 管理者 事業所 本社

摘要

- ① 棚卸を実施する倉庫を選択します。
- ② 商品を抜粋する場合、その範囲を指定します。
- ③ 棚卸日を年月日で指定します。

- ④ Enterキーにて指定した条件の全商品の一覧が表示されます。  
 (商品数が多い場合、表示されるまで長時間かかる場合があります)

明細入力										
	商品コード	品名	品名2	単位	帳簿在庫数量	実地棚卸数量	差異(出庫)数量	棚卸評価法	備考	マーク
46	1028	02B-P		個	0.0	0.0	0.0	標準原価		<input type="checkbox"/>
47	1029	28030		個	0.0	0.0	0.0	標準原価		<input type="checkbox"/>
48	1030	OK010		個	0.0	0.0	0.0	標準原価		<input type="checkbox"/>
49	1031	J-P		個	0.0	0.0	0.0	標準原価		<input type="checkbox"/>
50	1032	NB		個	0.0	0.0	0.0	標準原価		<input type="checkbox"/>
51	1033	AY-M-P		個	0.0	0.0	0.0	標準原価		<input type="checkbox"/>
52	1034	UF-P		個	0.0	0.0	0.0	標準原価		<input type="checkbox"/>
53	1035	US-P850		個	0.0	0.0	0.0	標準原価		<input type="checkbox"/>
54	1036	US-P757		個	0.0	0.0	0.0	標準原価		<input type="checkbox"/>
55	1037	MC-P		個	0.0	0.0	0.0	標準原価		<input type="checkbox"/>
56	1038	MD-P		個	0.0	0.0	0.0	標準原価		<input type="checkbox"/>
57	1039	HW3-P		個	0.0	0.0	0.0	標準原価		<input type="checkbox"/>
58	1040	E-P		個	0.0	0.0	0.0	標準原価		<input type="checkbox"/>

- ⑤ 担当者は、倉庫マスタで指定されている担当者が初期表示されますが、変更可能です。  
 担当者はシステムが自動で作成する棚卸伝票の主担当者となり、入在庫伝票と同様、この担当者の所属する事業所が、棚卸データの事業所の判別に使用されます。  
 ※摘要欄は任意の文字列を入力可能です。
- ⑥ 一覧には倉庫別の商品が表示されます。  
 実施棚卸の結果が、帳簿在庫数と異なる場合のみ、「実地棚卸数量」列に数値を入力してください。  
 入力した結果から棚卸差異数が自動計算され、差異の分だけ、棚卸伝票が自動で作成されます。  
 すべて出庫伝票で作成されます。差異数量が 20だった場合、20の出庫伝票が作成されます。
- ⑦ 実施棚卸金額は実施棚卸数量と在庫単価より自動計算されますが、修正は可能です。
- ⑧ 必要に応じて備考欄を入力します。備考欄の文字は商品台帳に印字されます。  
 ※備考欄およびマークは差異(出庫)数量≠0の場合のみ入力できます。
- ⑨ 更新ボタンにて棚卸終了です。